

防災ニュース 第 3号



あなたは どうする？ (3)

～ 大地震シミュレーション ～

皆様こんにちは。災害の発生は自宅にいる時とは限りません。会社や学校、買い物や乗り物の中など、その時どこでどうしているかによって行動は変わります。

もし今、大地震が発生したら、あなたはどのように行動しますか？自分の身に置き換えて想像してみましょう。（出典：東京都発行「東京防災」）（前号の続き）

【 外出先に潜む危機 】

高層ビル

上層ほど大きく揺れます。来訪者としてビル内にいたら、共用部分のエレベーターホールなどで姿勢を低くし、館内放送に耳を傾けましょう。

エレベーター

エレベーターの中で揺れを感じたら、すべての階の行先ボタンを押し、止まった階で降ります。閉じ込められたらインターホンで連絡します。



山間地

山間地では土砂崩れで生き埋めになる恐れがあるので、速やかに斜面や崖から離れます。余震や降雨などで土砂災害の危険が高まるので注意しましょう。

島しょ地域・海岸部

海岸には早くても数分で高い津波が到達する危険があります。隣近所に声をかけすぐに高台へ。周囲に高台がないときは、津波避難タワーなどに避難します。

【 発災時のNG行動 】

ライター、マッチ

ガスに引火して爆発する危険があるので、火をつけない。

スイッチ

火災や爆発の危険があるので、電気のスイッチに触らない。

電話

電話回線がパンクするので、発災直後に不要不急の電話使用は控える。

ブレーカー

火災の危険があるので、ブレーカーを上げて通電させない。

エレベーター

閉じ込められる危険があるので、エレベーターは使わない。

部屋の中

ケガをする危険があるので、部屋の中を裸足で歩かない。

救出活動

ケガをする危険があるので、救出活動は一人ではなく複数で行う。

車での避難

緊急車両の通行の妨げになるので、避難に車は使わない。

【 避難の判断 】

正しい情報を得る

揺れが収まった後、間違った情報に従って行動すると危険な目にあいかねません。行動する前に必要なのは、正しい情報を得ること。停電時でも聞ける電池式のラジオ（又は充電式など）やテレビ、その他スマートフォンのラジオ・テレビ、消防署や行政のサイトなどから正しい情報を得るようにします。



SNSを活用する

ツイッターやフェイスブックなどのSNSは貴重な情報源です。しかし災害時は、不正確なうわさや情報が流布することがあります。うわさをそのまま信じることなく、正しい情報を得るように心がけましょう。

家族の状況を確認

発災時は自分の命を守ることで精いっぱい、自分の手や足から血が流れていたり、誰かがケガをしても気づかない可能性があります。揺れが収まったら、一緒にいる家族同士でケガがないか、家に危険がないかを確認します。

家の内外を黙視する



一緒にいる家族の状況が確認できたら、次は家の中をチェックします。火の始末はできているか、避難するための経路は確保できているか。ラジオなどの情報に耳を傾けながら、しっかり周りの状況を目視します。

むやみに動くと危険

家の中からあわてて飛び出すと、落下物に当たって負傷する危険があります。まずは落ち着いて、家族と家の中の安全を確認。その後、周辺で危険な物・建物がないか、火災が発生していないかなどを自分の目と耳で確かめます。

近所の安否確認

家族の安否が確認できたら、隣人、近隣の住民に目を向けましょう。閉じ込められたり、下敷きになったり負傷した人などがいないか、更に避難の手助けを必要としている人がいないかを確認。いざというときは、助け合うことが重要です。（近助）

自宅以外で安全ならその場にとどまる

地震直後は駅周辺や道路も大変混雑し、大規模火災の発生や建物の倒壊など二次災害に巻き込まれてケガを負ったり命を落とす危険も。会社や学校の安全が確認されたら、すぐに帰宅せずその場にとどまって様子をみます。地震直後の連絡方法や行動をあらかじめ家族と話し合っておきましょう。

以 上